

予 算 ・ 決 算 特 別 委 員 会

観 光 建 設 分 科 会 要 点 記 録

○開会日時 令和8年6月23日（火） 午前10時12分

○場 所 伊東市役所第2委員会室

○出席委員 6名

1 番 青 木 敬 博 君	2 番 河 島 紀美恵 君
3 番 村 上 祥 平 君	4 番 井 戸 清 司 君
5 番 竹 本 力 哉 君	6 番 四 宮 和 彦 君

○出席議員 11名

議 長 中 島 弘 道 君	議 員 片 桐 基 至 君
議 員 重 岡 秀 子 君	〃 長 沢 正 君
〃 篠 原 峰 子 君	〃 大 竹 圭 君
〃 虫 明 弘 雄 君	〃 鈴 木 絢 子 君
〃 犬 飼 このり 君	〃 大 川 勝 弘 君
〃 宮 崎 雅 薫 君	

○説明のため出席した者 13名

副 市 長 近 持 剛 史 君	
観 光 経 済 部 長 肥 田 光 弘 君	
観光経済部理事兼公営競技事務所長 福 西 淳 君	
同 観 光 課 長 太 田 靖 久 君	
同 産 業 課 長 杉 村 浩 一 君	
建 設 部 長 山 田 昌 弘 君	
建設部建設課長 伊 藤 正 芳 君	
同 建 築 住 宅 課 長 横 山 亨 君	
同 都 市 計 画 課 長 佐 藤 純 君	
上 下 水 道 部 長 稲 葉 信 洋 君	
上下水道部理事 富 岡 勝 君	
同 下 水 道 課 長 池 谷 伸 弘 君	
同 水 道 課 長 堀 川 淳 君	

○出席議会事務局職員 3名

局 長 小 川 真 弘	局長補佐 鈴 木 綾 子
主 事 向中野 博 希	

○会議に付した事件

- 1 市議第12号 令和8年度伊東市一般会計補正予算（第1号）歳出所管部分
-

○会議の経過概要

○委員長（井戸清司君）開会する。

○委員長（井戸清司君）この際、お諮りする。付託議案の説明は既に本会議において終了しているので、分科会における説明は省略したい。これに異議ないか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（井戸清司君）異議なしと認め、さよう決定した。

この際、申し上げる。審査に当たって、議題に対する質疑は簡潔に、議題から外れないようお願いする。

○委員長（井戸清司君）日程第1、市議第12号 令和8年度伊東市一般会計補正予算（第1号）歳出所管部分を議題とする。

直ちに質疑に入る。

第7款観光商工費について質疑を行う。事項別明細書は7ページ及び8ページになる。発言を許す。

○6番（四宮和彦君）本会議場で犬飼議員が事業費3,900万円の内訳について質疑したのに対して、花火大会拡充のための費用として2,700万円、按針祭の機運醸成、周知、伊東駅前商店街の装飾、東海バス、伊豆急、JRへの周知に1,100万円、按針の功績の啓発に100万円との答弁であったが、もう少し具体的に中身について説明していただきたい。

まず、花火大会拡充のための費用2,700万円は、純粋に打ち上げ花火追加増発分の費用として全額追加するのか、また機運醸成、周知についても、どのような方法をもって機運醸成、周知を図っていくのかであるとか、伊東駅前商店街の装飾というのも、どんなイメージの装飾を考えているのか。以前、温泉情緒といって、駅前にちょうちんをやって当初物すごい不評を買ったことがあったので、その辺のところをもう少し具体的にイメージできる説明が必要かと思う。

あと按針の功績の啓発も、どんなことが企画されているのか、現段階で決まっている範囲で構わないので、その辺の具体的な内容を説明していただきたい。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

まず、花火大会の経費2,700万円の内訳であるが、純粋な花火打ち上げ料、花火代とし

て2, 500万円、花火増発に伴う会場の運営や維持管理で200万円の増額を予定している。また、装飾についてであるが、駅前ロータリーのちょうちんの一部を改修して、按針祭の告知をする形での駅前ロータリーの装飾、商店街の装飾としては宇佐美の商店街、それから市街地の湯の花通り、仲丸通り、キネマ通り、中央通り、あんじん通りにフラッグとか横断幕の装飾を予定している。また、やまもプラザの商店街でも同じようなフラッグの掲出を予定している。

そのほか、東海バスのラッピングバスの装飾、伊豆急の各駅の中での装飾を予定しており、あとは伊豆急にキンメ電車という列車があり、その中で、1車両分が伊東市の掲示になっているが、そこを今回、按針祭のバージョンに変更させていただくことを予定している。JRについては、首都圏の96駅に駅貼りのポスターを行って周知を図っていく予定である。

按針の啓発事業については、界エンジンのホテルでエンジン紀行といって、アニメーション等、職員が語り部みたいな形でストーリーをお話するような演目をやっているが、そちらを式典の前にやっていただいて、会場の運営費であるとか機械の借上料を予定している。また、そのほかにも按針祭当日、ホワイエ、あとはデュオの中での周知も予定している。

○6番（四宮和彦君）どんなことをやるのかというのはおよそ分かった。ただ、もう少し聞くと、2点目の機運醸成、周知、伊東駅前商店街の装飾、東海バスのラッピングであったり、電車の車内広告であったり、1, 100万円の内訳はどれに幾らずつつくか決まっているのか。

○観光課長（太田靖久君）およそにはなってしまうが、駅前ロータリーの装飾に300万円ぐらい、伊豆急の各駅への装飾が100万円、伊豆急のキンメ電車の車内装飾が50万円、東海バスのラッピングが150万円、商店街へのフラッグ掲出が450万円、JRが50万円という予定でいる。

○2番（河島紀美恵君）では、大きく3点ほど伺いたい。今、四宮委員が聞かれた、装飾費用にかかる内訳は感謝する。按針祭にかかる費用は複数に分散しており、警備、清掃、イベント運営費などを含めた総事業費が議会にも市民にも見えにくい状況だと思われる。昨年度、令和7年度の市の総事業支出が分かればお聞かせ願う。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

当初予算1, 700万円を予定しており、執行委員会のほうで残が出たので、決算額としては1, 699万2, 436円となる見込みである。

○2番（河島紀美恵君）透明性の確保を今後、どのような形で担保していくか。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

執行委員会の決算の透明性ということかと思うが、按針祭については、按針祭執行委員会が行っている事業であるので、事業費の決算内訳についても、執行委員会の総会の中で報告している。市の負担額も増額していることから、今後は執行委員会の中で公開していくことも検討

していきたいと考えている。

○**2番**（河島紀美恵君）今後は市の全額負担となるので、市議会議員全員に対し、報告書の配付を希望したいと思う。その辺ができるかどうか、検討願いたい。いかがか。

○**観光課長**（太田靖久君）執行委員会で諮る中で検討していきたいと思っている。

○**2番**（河島紀美恵君）大まかに1問目で、2つ目について細かくある。按針祭というのは、長年にわたって旅館や商店、市民が寄附を通じて支えてきたという歴史があるが、恥ずかしいことであるが、財源について、6月19日の伊豆新聞で寄附から市負担への記事を読むまで、花火代が寄附から市の全額負担に移行したという方向転換だとはっきり認識していなかった。それは私個人としては、市が負担することは寄附する皆様の負担軽減や、今後の持続性も考えられたよい方針転換だとは理解している。

しかしながら、負担は大変であったが、花火大会に寄附することで担い手という励みになっていたとの意見もお聞きしている。単なる資金調達だけではなくて、参加のあかしという形で、自分たちの祭りを自分でつくっていくという誇りがあったようなことを感じて、それが失われていくというか、消えていくことも感じて、そこはそれとして、なぜ移行するのか、寄附文化をどう継承するのか、市民の役割はどう変わるのか、財政負担はどれぐらい増えるのか、説明が十分でないという意見も寄せられているので、今後の寄附文化の再構築や新たな市民参加の仕組みづくりについて伺う。

○**委員長**（井戸清司君）若干外れてきている。あくまで補正予算である。

○**観光課長**（太田靖久君）お答えする。

まず、寄附文化の再構築については、今回、市で花火代を全て予算措置しているが、寄附については、これまで同様に受け付けており、花火大会の充実に使用させていただきたいと考えている。

これまで協力いただいた事業者には文書にて、今回から花火代は市で予算措置することになったこと、また、これまで寄附いただいたお礼と引き続き賛同のお願いをしている。新たな市民の参画についても、やはり同じように寄附をお願いしているので、そちらで協力いただくとともに、按針祭が8月8日から始まるので、ぜひ事業というか、各イベントに参加いただいて楽しんでいただくのも参加の形かと考えている。

○**2番**（河島紀美恵君）はっきり表に出るような周知をお願いしたいと思う。

もう一つは、昨年度の倍となる2万発の花火との事業案であるが、段階的に市が負担する経緯がなくて、全ての事業負担を受け持つことになった根拠についてお聞かせ願いたい。

○**観光課長**（太田靖久君）お答えする。

市の予算措置について、例えば段階的かというと、一部寄附いただいて足りない分を市が補填

する形になるかと思うが、そういった形であると、当初から予算規模を見込むのが難しいということ。また、市が一定規模の花火大会を開催するための予算措置を行うことで、民間の皆様からいただいた分はさらに拡充のために使う、そういったことで考えているので、今回、市で全額予算措置させていただいている。

○**2番**（河島紀美恵君）承知した。今後、検証やデータ取りもしっかりやっていただくことを希望する。

3つ目の大きな枠で質疑する。80回記念で2万発というのは理解できるが、一気に市の負担の増加というのが見えてきて、当初予算が4,700万円計上。今回の補正案では3,900万円が追加されるということで、補正の積み方が後追いしているとも感じる。令和7年度の花火代は寄附金2,500万円で打ち上げられたとのことであるが、本年度、当初予算での按針祭の花火の打ち上げ数はどのように試算されていたのかお聞かせ願いたい。

○**委員長**（井戸清司君）今の議題は当初予算ではなく補正予算である。それと、今の質疑は全て委員会協議会の中でも既に説明されている話であるので、注意してほしい。

○**観光課長**（太田靖久君）お答えする。

当初予算については、昨年度で1万発、プラス増発分ということで予算要求を行った。2万発については、市長の意向を受けたこと、また実際、花火の打ち上げ場所も調査する中で何とか上げることができそうだということで、今回、補正予算で計上させていただいている。

○**2番**（河島紀美恵君）今のお答えであると、最初は1万発に対して、増発分を少しは含んで試算されていたということだったと思う。このことに関しては妥当と考えるが、増やす方針も答弁を聞いて理解した。

最後の質疑をする。寄附に頼ることをやめ、一般会計予算に計上されることとなり、財政負担の見える化が進んでいると思う。今回の按針祭では、過去最高の8,600万円計上の予定になるが、警備や清掃等に1,000万円から2,000万円という去年の試算を見ると、推定約1億円規模の大事業になったという構造に見えて、実際に市の財政負担増になっていると考える。

今回、按針祭の開催についてであるが、各地で聞いている中では、各地の花火大会でももう少し市の補助が欲しいなんていう話も出ているが、以上のことから5点伺う。

○**委員長**（井戸清司君）暫時休憩する。

午前10時28分休憩

午前10時29分再開

○**委員長**（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

○2番（河島紀美恵君）来年以降はどうするのか。来年は市制80周年ということであるが、2万発を計上するか。つまり、来年度以降の事業内容の早期提示ができるかお聞きする。

あと、市内の宿泊施設は数年、満室状況であるので、経済効果を伸ばせるかどうか。

そして、財源を財政調整基金に頼らない改善策、補正に頼らない予算編成の改善策についてお聞かせ願いたい。

○委員長（井戸清司君）暫時休憩する。

午前10時30分休憩

午前10時30分再開

○委員長（井戸清司君）休憩前に引き続き、会議を開く。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

来年度以降の花火大会については、市で予算措置する予定であるが、発数については今後検討していきたいと考えている。

経済波及効果については、市街地の宿泊施設はかなりいっぱいということであるが、南部地域はまだ若干空きがあるというところと、日帰りのお客様もそれなりにお金を落としていただけるということで、今回、2万発にすることで経済波及効果は上がるものと考えている。

3つ目の財政調整基金と補正に頼らない予算措置については、財政当局等と検討させていただきたいと思っている。

○観光経済部長（肥田光弘君）私、観光経済部長であるが、今回の予算をつくった財政課長の立場でお答えすると、政策的な部分の予算については間に合わなかったというのが正直なところである。この夏から事業見直しに入っているので、来年度以降は、できるだけ当初予算での計上をお願いしていきたいと考えている。

○1番（青木敬博君）2つか3つぐらい。議場でもさらっと出ていたが、普通に観光と考えたらお客さんを増やすことが目的であるので、例えば秋に、按針祭を2回に分けて行うという考え方もあったと思う。その検討は本当に全くなく、市長の判断だけで花火を増やすという判断だったのか、検討はしたのかだけお聞かせ願いたい。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

今回の按針祭の花火2万発については、80回の記念大会であること、また、昨年度、伊東市はいろいろあり、伊東市から離れてしまったお客様にもう一度戻ってもらうきっかけにしたいということを目的としているので、今回については当初から2万発ということで、秋の開催は検討していない。

○1番（青木敬博君）JRとか伊豆急とか東海バスに装飾を行い1,100万円という話である

が、伊豆急と東海バスは伊豆半島内しか行かないので、そんなにお客さんの影響力はないと思う。ＪＲは９６駅に駅貼りしてくれると言うが、大体あそこは１枚、安くて５万円で、高くても９万６，０００円とか、そんなものであるので、９６駅に１枚ずつ貼ると大体２週間で終わると思うが、本当にそれぐらいの量で、もし２週間だとするならば、どこからどの期間で貼り出されるのか分かるか。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

駅貼り期間であるが、１週間となり、予定では７月７日から７月１３日を予定している。

○１番（青木敬博君）このポスターであるが、２万発というのをすごく重点的に出していると思う。９６駅であると、多分、首都圏全部行くと思うが、お客さんが増えたとして電車に乗れるか。まず、どれぐらい増えると想定しているのかということと、増えた場合、去年も電車がぎりぎりでも乗れていたイメージがあるので、電車の相談をちゃんとＪＲとしているのかを伺いたい。来てもらって帰せなかったら、結局、お金を使って顧客不満足をつくるだけになってしまうので、そこら辺の相談をしているか確認を取りたい。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

まず、何人ぐらい増えるかを見込んでいるかであるが、昨年、桜祭は雨でお客様が少なかったこともあり、令和６年度が花火大会だけであると２４万人いらっしやっていた。そこから１万人でも増やせればと考えている。

電車のほうについては、当然、ＪＲに増発と例年どおりの数をお願いしているが、それ以上もなかなか難しいというところで、昨年と同様の増発数となっている。

○１番（青木敬博君）最後、今、２４万人という数字が出たが、観光課のほうで携帯電話の移動データを使ってイベントの数を取っているが、２４万人という数字が本当だとすると電車に乗り切れないはずである。正確な数字は、多分、観光課の移動データで出せるのではないかなと思う。それは今持っていないか。

○観光課長（太田靖久君）お答えする。

昨年度から事業を始めている。今、割合の数字しか持っておらず、正確な２４万人の内訳データを持っていないので申し訳ない。

○１番（青木敬博君）お金を使って顧客不満足をつくらないようにだけ気をつけていただきたい。

○委員長（井戸清司君）ほかに質疑はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（井戸清司君）質疑なしと認める。これをもって質疑を終結する。

これより討論に入る。発言を許す。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（井戸清司君）討論なしと認める。これをもって討論を終結する。

これより採決する。市議第12号歳出中、本分科会所管部分は、原案を可決すべしと決定することに賛成の諸君の挙手を求める。

〔賛成者挙手〕

○委員長（井戸清司君）挙手全員である。よって、さよう決定した。

○委員長（井戸清司君）以上で日程全部を終了した。

分科会審査報告書の案文については、正副委員長に一任願う。

○委員長（井戸清司君）これにて予算・決算特別委員会観光建設分科会を閉会する。

○閉会日時 令和8年6月23日（火）午前10時37分（会議時間24分）

以上の記録を認める。

令和8年6月23日

委員長 井戸清司